お客様のひと言が仕事の向き合い方を変える

~ICTの活用を通してリーダー職の姿勢が変わる~

社会福祉法人 芦別慈恵園 サテライト型居住施設 かざぐるまくらし係 マネージャー 佐藤勝利

芦別慈恵園の自立支援

H25

H18 学習療

学習療法委員会

自信と誇りを持ち 認知機能の維持・改善 講師来園·多職種協働 10~16年以上経過

H21

介護技術委員会

動き出しはご本人から 力を引き出す介護

H22

栄養ケアチーム

最期の時まで 食べるを支える

多職種介護力向上委員会

水分・排泄で元気な暮らし

H24

生活を守る委員会

穏やかな暮らしのために 事故・拘束・虐待防止

お客様の生活 7つの自立支援の柱

H22

もみ塾委員会

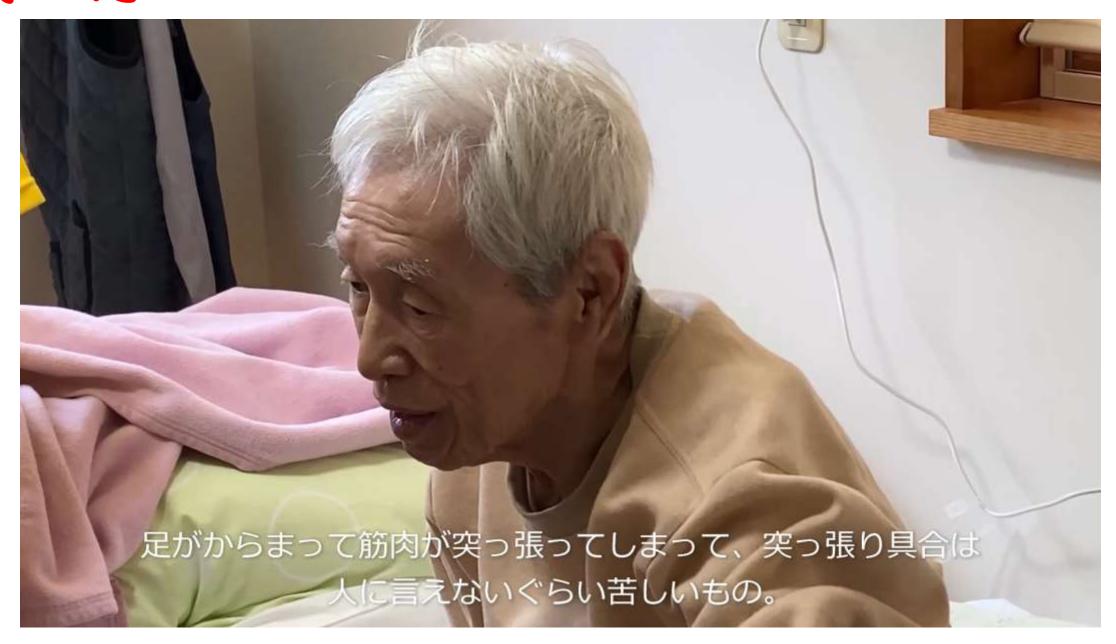
両手のぬくもりと 笑顔でいやしの時間 口腔ケア委員会

口から食べ続ける為に

H22



N様の思い



N様の不安

- ・筋肉が突っ張る、足に痛みやしびれが増加
- ・人に言えない程苦しい。
- ・コールに手が届かない。
- ・呼んでも ライフリズムナビ導入・気づいて フルマー フルストンである。

入居者がどんな時に困っているか 職員は分からないでしょ?

自分たちの考えとは違っていた・・・

ライフリズムナビ導入

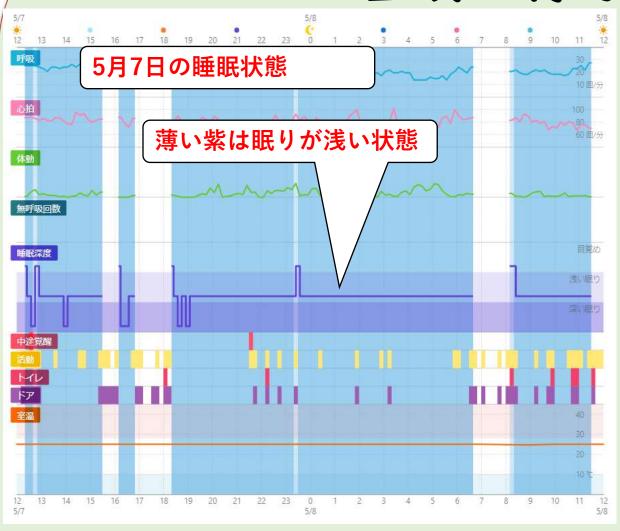
- ・ICTの活用
- ・介護ソフトと連動性が高い

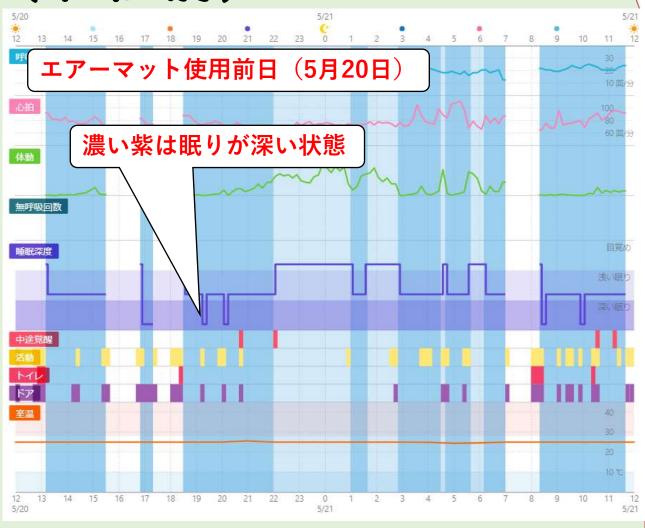


活用法

- ・お客様の行動の把握
- ・睡眠状態の確認
 - ・お客様の健康状態の把握
- ・夜勤帯の業務軽減

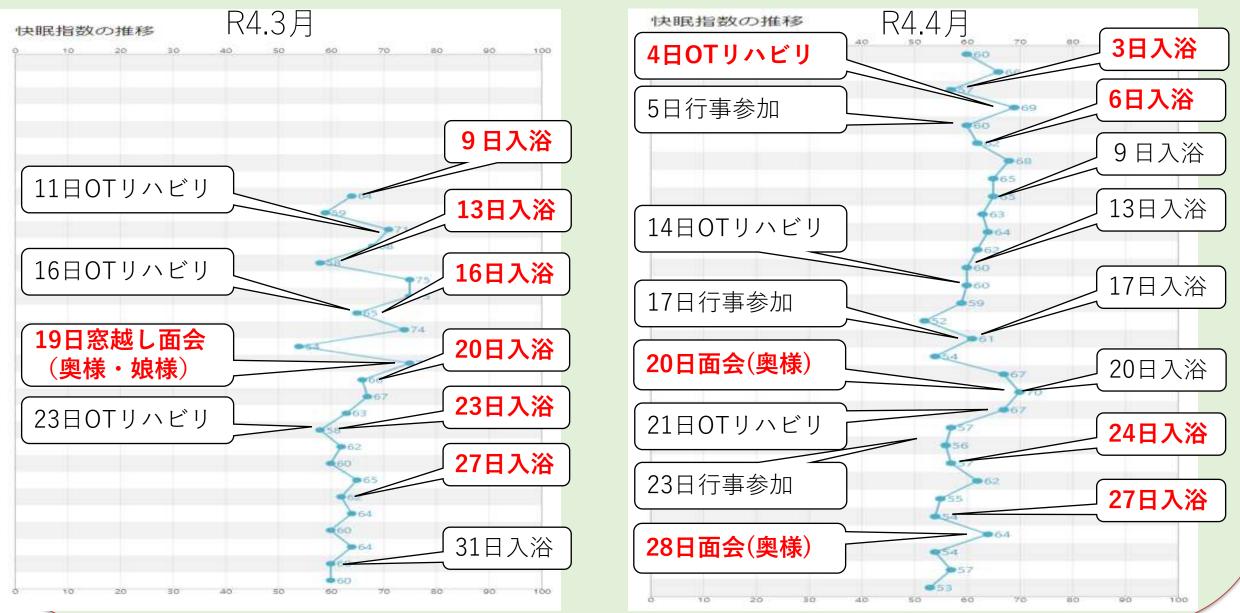
睡眠の様子(取組前)





取り組み前は眠りが浅い時間が長い事を確認

入浴等と快眠指数の変化(面会や行事) よく眠れている日の把握



原因として

- ①足の痛み、しびれ
- ②家族に会えない寂しさ
- ③持病悪化による不安

取り組み

- ①エアーマット 使用
- ②広い居室での 面会の実施
- ③ライフリズムナビの説明

取り組みの結果 ご本人様より

- ・足のしびれや痛みの軽減
- ・居室が広くなった事で圧 迫感が無く快適
- ・家族と面会が出来る事で 安心
- ・職員が常に見守ってくれて安心



深い眠りが続いた日数の比較

見守りシステム『ライフリズムナビ』の 測定結果より、深い眠りが長く続いた日数を比較

測定した月	快眠できた日数	ケアの取組
4月	0日	取組を行う前
5月	3日	5月21日エアーマット使用
6月	17日	6月29日広い居室に移動
7月	19日	7月1日ライフリズムナビ説明





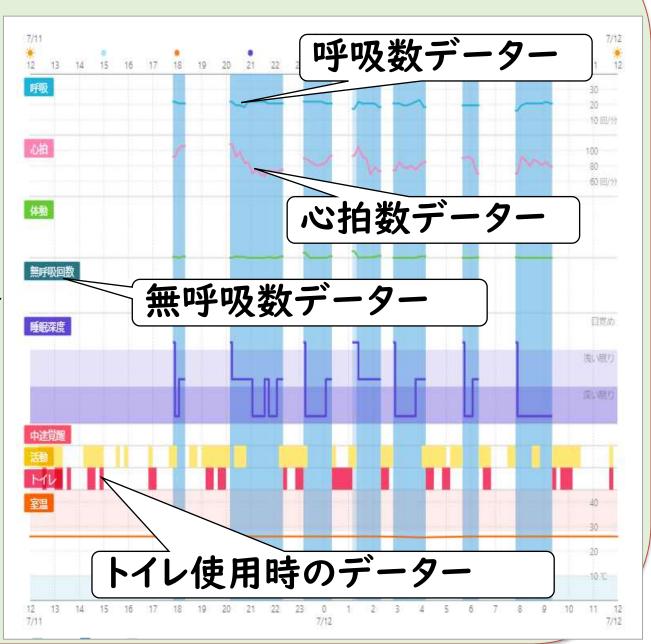
睡眠の質が改善され、「快眠」できていることを確認!

多職種で事例検討

- ①心拍、呼吸、無呼吸数の確認 ・スリープセンサー活用
- ②自立している方の排泄の把握 と改善の経過 ・トイレ人感センサーとアラート 活用



一人ひとりの体調把握 泌尿科処方薬の調整



トイレアラートの効果

- ·追加排便薬の減少や 転倒防止
- ・布パンツ使用者の増加

20 名中 18名



ライフリズムナビ導入前後での 夜勤帯の業務の比較



夜勤帯の勤務時間は

21時55分から翌7時35分まで (休憩100分)

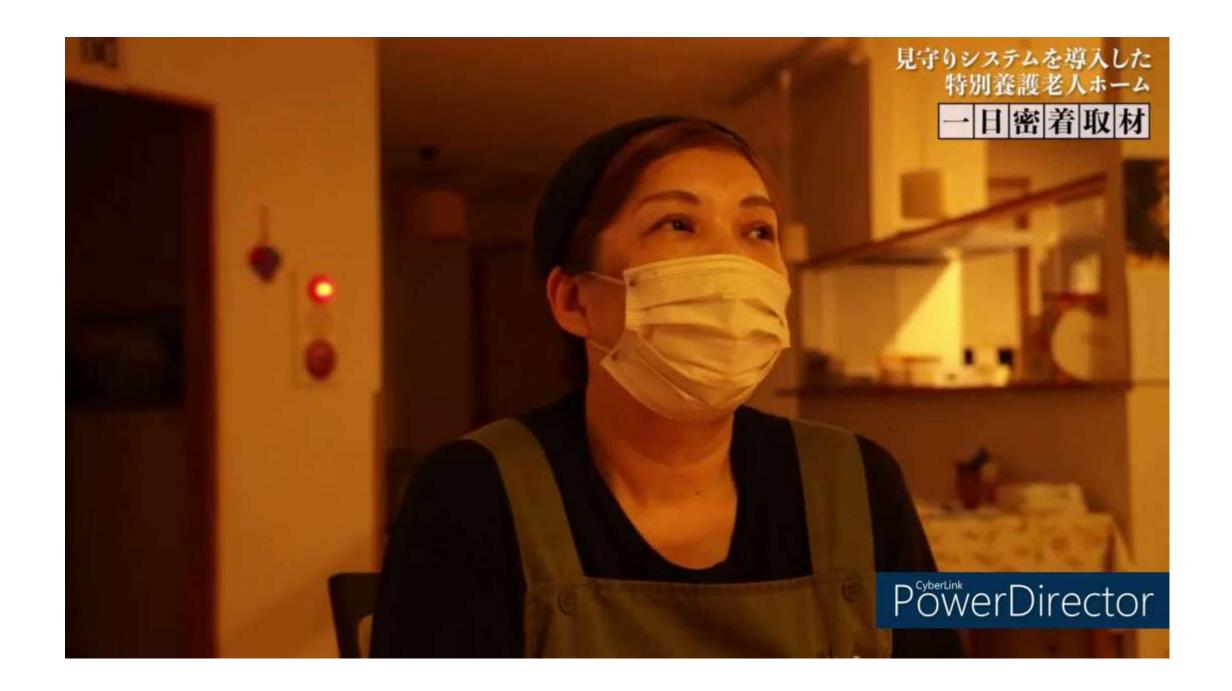
1.2階(各10名で20名)を1名で対応

夜勤帯の業務比較

導入前

- ・2時間毎の訪室(1人4~5回)
- ・定時のパット交換
- ・都度のコール対応

休憩は10~20分程度を小刻みで100分は取れるが休憩している感覚はなかった。



夜勤帯の業務比較

- 導入後
- ・定時での訪室を止めライフリズムナビで確認 (1人2~4回)
- ・データからその方に必要な訪室回数へ変更 (睡眠の妨げにならない様に)
- ・時間にゆとりが出来た事で離床への動き出し 時間を調整

まとまった休憩時間(30分~1時間)がとれる様になった事で身体的、精神的にも楽になった。

マネジャー(くらし係の責任者として)

ライフリズムナビのデーターの『見える化』により

- ・根拠を持つ
- ・分かりやすく説明
- ・実践し確認
- データをもとに成果をだす
- ・しつかり方向性を示す
- ・決めた事は必ず実践する
- ・出来るまで何度も伝える



それが人材育成

ケアの記号 お客様・職員の笑顔を 増やす

「今後の課題」

『特定技能実習生』

ミャンマーより3名2月入社

- ・芦別で住みやすく、
- ・芦別慈恵園で仕事しやすい様に

フォローする

その為にミャンマーの事を知る



ご清聴ありがとうございました